

被災現場に立ち、考えたこと

平 塚 儒 子

帝塚山学院大学 人間科学部 教授

3.11の大震災を考えると、日本というのは一体どういう国なんだろうと思われたと思います。日本という国は、ちょうどユーラシアプレートの上に乗った日本列島なんです。長細い国なんですけれども、そのユーラシア大陸の上に乗った日本列島は、もう古代から何が起こるかわからない、これは予測のつかない事態が起こる気象条件であったと言われております。

私は、世界を歩いたときに思ったんですけれども、エジプトも水害が起きますよね。でも、あれは季節的にちゃんと予測がつくわけです。そうすることによって、これは科学的に、この時期になったら水害が起こるんだと、そうしたら先に起こる前に逃げておこうとか、そして、次に水害が起きた後にこの作物をちゃんと植えようとか、そういうふうなことを考えられたんですけれども、日本列島というのはそういう国ではなくて、いつ災害が起きるかわからない、ぶよぶよした土壌の上に成り立つ日本列島であったということです。

そのかわり東西に細長い列島なので南は非常に温暖、それから北海道のほうに行きますと非常に寒い、いてつくような、こういう列島なんです。そういうところで、当然、四季はあり、その気候風土というのは4つの気候に恵まれております。

その一つは、春です、もうちょっとしたら来ますね。夏です、これは蒸し暑い蒸気が立ち上がりますね。その次に秋です、稲ができます。それで、今度冬になったら雪が降りますよね。こういうふうな国は、世界中探してもないと思ってもいい。

そういう中で、私たちは古代から稲作を中心とした文化、だから、湿気の多いじめじめした土地ですから、水を張って稲をつくる、そういう文化であったわけです。稲の文化ですから、当然家、それから村、土地、そういうふうなものを非常に大事にして、そして集団の、相互扶助で生きてきた。何があってもこの家、土地、村があるから助け合えるんだという、そういう国であったわけです。

私たちは、だからそういう中で、不測の事態がしょっちゅう起きるので、何だか知らんけど実りの多いときには神様はいろんなものをくださるので、豊漁のときにはたくさんのお魚をくれる。だけど、ひとたび暴れると私たちは何をされるかわからない。これは、私たちは人知では計り知れないようなものだということで、自然に対しては畏怖の念、怖いけれども尊敬する。私たちは機嫌よく、そういう中で、どうぞ神様、私たちに実りを与えていただきましてありがとうございますという考え方、これをアミニズム文化というんですけれども、精霊の住む国ということで、

我々日本人は精霊の住む国に集っていたわけなんです。当然、北から南までいろんな災害は起きるわけですから、その都度、災害の起きるところに神社を建てていったわけです、古代から。その神社にお参りしながら、ことしもありがたくいろんな恵みをちょうだいいたしましてありがとうございますという言い方で、そこに感謝の念があったわけです。それで、地域ぐるみで助け合う相互扶助の考え方があったと言えるわけなんです。

ところが、私たちがそういう生活をずっと古代からしてきたんですけれども、この生活が第2次世界大戦後、すっかり人々との村、家、土地から離れて生活するようになりましたから、すっかり私たちのもとにある考え方、神道の考え方というんですけれども、これを忘れてしまったわけです。

今回、私は子育て支援をずっとやっておりまして、この子育て支援は私が一番最初に東北で着手したんですけれども、英国のヤングママプログラムを日本流にアレンジしまして、東北の人々にまずやってみようと思いました。そこはまだ家父長制の名残があり、集団や地域社会があることからそこでやってみようと考えました。もう一つは、自殺率の高い地域でありますので、それで私はこの地で一番最初に子育て支援してみたらどうだろうかということで、四、五回やってきたわけなんです。東北地方というのは、私にとってはもう何年か前から活動をしているんだということなんです。

それで、3.11が始まる前に、こういった土壌で何かが起きたときにはどうなるだろうかという、私の本当に勝手な推測があったわけなんですけれども、その前に3.11の災害の前に、実は栗原市で6強の地震があったわけです。そのときに6強の地震があつて、もう大変な思いをしたわけです。そして、この地域に救護施設がほしいということで、救護施設をつくるための努力をしていたわけなんです。そして、3.11の人——女川なんですけれども、この地域は——それを受け入れたために死ぬ人が非常に少なかったということです。

私は、皆様たちに今日お伝えしたいのは、じゃ、こういう不測の事態における災害、これは日本列島の上に住んでいる限りにおいては、私たちは予想のつかない、今の科学では予想のつかないことがいっぱい起こりますので、じゃ、私たちはどういった心構えで、どういった考え方で、何を準備していたらいいのかということ。女川は亡くなった人も行方不明も一番少なかったんです。そういうことがございまして、私たちが実体験したものをきょう、皆さんたちに見ていただくことになります。

実は東北地区を調査しましたのが、10年前からです。日本人のルーツという考え方、神道のルーツがここにまだ残っているということで調査しました。

なぜ大災害があった東北の人々は静かで、道徳的であるのか。本当に静かです。今もそうです、大騒ぎしません。これは世界でも注目されておりました。このところを私は、皆さんたちと一緒に、どういうふうな心構えで過ごしたらいいのかということを考えてみたいと思います。

もう一つは、私たちはユーラシアプレートの上に位置する日本列島なんですけれども、これが

年間、9から10センチのスピードで太平洋プレートが日本をつついていきます。つついて、それで年間9から10センチの圧力で動かしてるわけです。だから、本来はユーラシアプレートのほうが大きいので、太平洋プレートは小さいから、こんな大災害は起きないですけども、時としては起きることがあると言われております。そういうことで、この2点について今日はお話をしていきたいと思います。

写真を見て下さい。皆さんよくご存じだと思いますけれども、宮城県南三陸町の写真ですが、そこまで濁流が来たということなんです。

これは、先ほどお話ししましたユーラシアプレートというのが点々と線上にあります。そして、下のほうにはフィリピンプレートというのがあります。それから、もう一つ太平洋プレートというのがあります。それから、下のほうの上のほうには北米プレートというのがありまして、これだけのプレートが日本列島を押しているわけです。

そして、この下のほうに、このプレートはどういうふうにして地震が起きるのかということなんです。私が一昨日、皆様のために模型をつくりました。赤いほうが陸地、もう一方の側が海のほうということにいたします。これがどういうふうになっているかと言ったら、これが海のほうですからこのようになっているわけです。そして、こちらのほうがこの陸地なんです。この太平洋プレートが、日本海溝付近で日本列島の下へ潜っています。マントルが下で、海側は上であり、海側が下へ下がるということは、海が表面で冷たくなっているから、下のほうは、熱いどろどろしたマントルですから、下のほうが軽いわけですが、だから上のほうが、プレートがぐっと海の側が下がります。水平から30度の角度で下がります。そしたら、陸地のほうも一緒について下がろうとするわけです。そして、今度耐え切れなくなったときに、パーンと上がるわけです。このときに、この海溝型というのは、海と陸地のほうのプレート、海のほうのプレートと陸地のプレートの中で起きるのが海溝型のプレート、逆断層と言っているんです。逆断層というのは、普通だったらこれだけがずっと沈んでいくわけ、30度の角度で。ところが、これが陸地も一緒に下がって、そしてこれがパーンと上にはね上がる、この形が逆断層と言っている。これでわかりになりましたでしょうか。

こちらが海です、いいですね。海側のプレートです。こちらが日本の陸側のプレートです。いつも海のほうが下へ潜り込みます。ずっと潜り込みます。30度の角度で潜り込みます。そしたら、普通だったらこの状態で潜っていったら何もないわけ。ここまでわかりますね。ところが、逆断層の場合はこれも一緒に潜り込みます。そしたら、こちらのほうが耐え切れなくなって、パーンと上がるわけです。

そうすると、ここで地震が起きる、ここで海溝型というのは、陸と海との間でできるこのプレートです。それぞれのプレートがこういうふうなプレートで起きた地震のことを逆断層型の地震というわけです。それが、下のほうに書いてあります。

普通は、30度の角度でカーテンをずっと……、机の上に食卓用のシートを敷いて、それが重いほうにずれ落ちていく、想像してください。それが、30度の角度でずっとおりていく、これが普通なんです。そこでは、余り地震は起きなかったんです。それが、こういうふうにずっと、こうおりていったときにはいいんですけれども、これが陸地のほうをこういうふうに変がってしまったんです。これが耐え切れなくなってポーンとはね上がったんです。こういう形なんです。これが、こういう海溝型の大きな地震を起こすということなんです。

今回は逆断層、逆というか、こっち側が普通です。そして、こういうふうにもう耐え切れなくなって、ポーンと上がるから逆というわけです。逆断層というふうに考えていただいたらいいのではないかなと思います。

今回の地震は、マグニチュード9の力を出したわけなんですけれども、マグニチュードというのはどれほどの大きさ、幅を持っているのか。それともう一つは、皆さんの資料に書いてありますけれども、震度というのがあります。書いてあります。その震度というのは、私たちが感じる、ゆらゆらする、それが、どういうことなのかということが震度と言います。

マグニチュードというのはプレートの大きさ、ずれのことを言います。震度というのは、人が感じる、どういう状態が震度ゼロなのか、震度6なのか、震度5なのかということがそこに資料としてありますから、これから、棚の上から物が落ちたとき、これは震度何になるのかということと、きょうの資料に書いてありますので、それをごらんになっていただきたいと思います。

それでは、ここでずっと地震が起きているわけです。日本列島は、たくさんの地震が起きているわけなんですけれども、もう、これは今までで私たちが経験したことのないような量なんです。ところが、ここで非常に低いところもあるわけです。これは、防災計画が行き届いて、それから子供たちの教育が行き届いて、さあ逃げろということで訓練された地域は死者は低い。しかしながら、それがされていない、さらに病気になった人、プライマリーケアが受けられなかったというような地域は、非常に多く死者が出ております。

これは、私のところへ送られてきた写真であります、津波です。プレートが逆断層で起きたとき、逆断層起きてはね返りがあった時に、このはね返った部分が津波の力になるわけです。このときは、縦×横の高さ、これで立方体になります。この立方体が、海からはね返って上がった、この上がった分だけを縦×横×高さで計算したら、立方体になるわけです。それが津波となって押し寄せてくるわけなので、この形とがった角のような波というふうによく言われておりますけれども、まさしくこれを見ていたら、とがった角が多く押し寄せてきています。

山のようにとがってますよね、これみんなとがってます。このとがったのが、津波です。

この写真は、東北で映して送られたものです。このような波が、恐らく津波におそわれるとは思ってもよらなかった。日本人も。かつてこれは、ラフカディオ・ハーンが表わしています。「稲の日」という小説があります。東南海地震のことが書いてあります。麦だなど、潮が引いて、物すごい勢いで引いたなと思ったら、ドカンと山のような波が押し寄せてきた、それで高いところへ、

高いところへ逃げたということが書かれております。もし読まれる機会があったら、ラフカディオ・ハーンの、この関西の地、和歌山の地で起きたことが書かれてありますので、同じような状態の津波が、押し寄せたということになります。

もう瞬く間に、家の高さどころじゃないです。大きなこぶのようなものが押し寄せてくるといことなんです。もう瞬く間にのまれてしまいます。これは、手前のほうはまだ水が入ってないんです。その瞬間をとらえて写されています。

これは、津波の引いた後なんです、下のほうに毛布が敷いてあるんですけども、これは3体の御遺体なんです。この御遺体に毛布をのせてあるわけなんです、3体分、御遺体。そこに警察官が手を合わせてます。こういう光景がいっぱいあったということなんです。

そうすると、ここで東北の人々がどういう考え方を以前からしていたのか。私が調査したものです。全国1,138名を調査いたしました。“大切な人間だと認識している”ということ、これは大事な感じ方なんです。自分が大切な人間だと思わなかったら、生きていくことが出来ない。ここで、皆さんにこれから持ってほしいことは、私は大切な人間であると認識しているということ（自尊感情）。私の老後は、私のパートナーに看てもらいたいと言っている。一方で、今、離婚する人が非常に多くなっている。私に対して「先生、独身ですか」とよく言われるの。だけど、私、独身じゃないのです。結婚して、私が長崎で家を借りて生活していたら、主人が通ってきてくれました。それを見て私の院の教授、一番ヶ瀬康子は「現代風通い婚」と言っていました。家族のきずなと、お互いの尊厳性を守ること、自己決定権を守ることが出来たら、今後どんな災害が起きても、この困難を切り抜けることが出来ると考えられます。今存在している地域の人々のために働くことや奉仕することが大いなる喜びとなるでしょう。東北の人々は、非常に家族を大切に、そして夫を大切に、そして妻を大切にしています。そういうことで、こういう考え方が出てきます。

現在人間性回復のためには地域社会を再評価すべきだと唱えられ、住民の一体感を高めるために、行事の取り組みがおこなわれている。共同体的、昔ながらの集団主義の組織づくりが必要とされ、一方では、個性ある町づくりの差異化が求められている。そこで「人間関係が煩わしい」、地域社会では個性化を防げるという問題がある。

これは、次も非常に大切なことですけれども、子供と一緒に生活する。これは、日本の古来の生き方です、昔の。これは、稲作文化の集団生活の家、土地、村という家族制度のあった時代からずっと引き続いて、子供と一緒にどうしても生活したい。現代の東北の子は、親の気持ちの抱き方と異なっている若者達自身は東京へ出たいと考えています、しかしながら、就職先がないから、しかたなくこの東北の地にいる。就職口がなく未来に希望の無い状態でもある。一方、中、高年者の自殺者が非常に多い県とされている。家族制度が一面残っていて個が確立していない、家族のきずなが強いということが考えられるのではないかと思います。

次に、東北の災害で、本当に悲しい出来事でありました。女川の地域では、いたるところに死

者が出て、そして自衛隊が死者を運んで、行った先は、学校で、被災者も泊まっているんです。もう火葬ができない状態になっていました。

この写真は、お父さんと子供です。多分お母さんが亡くなったんでしょうね。それで、下に棺があります。ちょっと浅いですけども棺おけがあります。その棺の上に、小さな手で砂をかけているんです、火葬できないから。この棺には、くぎを打てません。打たないで、仮の埋葬をして、後に火葬しようとしているのでしょうか。でも、これで恐らく最後のお別れになっていると思うんです。多分お母さんの棺に砂をかけているんだと思います。極めて多い棺です、至るところに青いシートがあります。ここに水がたまらないようにシートで覆っています。

東北の人々の老後は、私のパートナーに看てもらって、子供と一緒に生活する。これが、東北の人の思い、考え方なんです。皆さんはどうでしょうか。では、これはその前に起きた大地震なんです。これは、栗原市栗駒の震度6強の地震があったわけです。ここで道路が切れている。ですけれども、この道路、上のほうに道路が白く、見えている。この道路は災害以前は、つながっていたんです。この災害の状態が日本で報道されていないが、地震の脅威を確認した直後、身震いしました。この地にジープに乗って、この辺りを回りました。これは、だれも見えていない光景だと思いますが、一番上の深いグリーン色、そして、下方は、少し黒くなっています。これが、杉の木の肥料の入った堆積層があり、黒くなっています。ずっと稜線として見えますが堆積層。さらに下方を見て頂くと、ごろごろした岩がいっぱいありますが、これは、大きな火山岩です。岩がぼんぼん積み重なって、山になったわけです。更に下方には、さらさらした砂岩があり、ここは海だったんです。この地はおそらく海の上の、プレートから噴き出したマグマを創造します。私たち温泉に入って、いい気持ちと言って喜んでいますが、その下はマグマ溜まりの地獄なんです。

この地は、火山が噴出して出来たと推測出来る山がありました。私が車で通ったときにぞっとした光景は、火山灰でできた山、これは、全部見事に道路まで土砂崩れが現れていました。山の下方においてグリーンに見える光景は杉が見えます。この杉の木は、一番上にあったはずのところ、山の崩落が一気に下まで落下したものです。約140メートルの崩落です。山に亀裂が入るとき、山へ逃げなさいと言っても山も切れ、崩落している可能性がある。山へ逃げた人は、クマに襲われて体重が半分になっていたと地域の人が言っていました。どこへ逃げても怖い。

地震災害の、情報が薄れた暁には、東北の地の日本版グランドキャニオンの公園にするといいました。広い亀裂が入っているグランドキャニオン、140メートル落下の状態は、アメリカのグランドキャニオンも地震災害で生じたのではないかと想像出来る光景でした。

川の上方の川も途中で切れています。山の崩落のために途絶えて川も落下のために切れていました。まるで、クリまんじゅうを想像されると、それをまっすぐに包丁で切った状態になる。これが、地震の現象である。これはまだ明確にされていないが、恐らく山の地震と海の地震の関連する予兆があったのではないかと管理する係官は話されていました。

次を見ていただきますと、ここから他府県と宮城県の両方の違いをとっております。ここで、

なぜ静かで心穏やかに時間を過ごせるのかということなんです。宮城県と他府県の人の比較を示していますか。宮城県は、モチベーションが、他府県より高い力、到達する目的を持っている、これをモチベーションと言います。こういう人は、他府県は宮城県よりも“いらいらして怒りっぽい”人が多いということになります。

“イライラして怒りっぽい”から、他府県の人と余り一生懸命に何かやっている人のそばへ行ったら怒られますよ。次は、今度は新しいことに挑戦すること。これモチベーションがあったら、“新しいことに挑戦”したいですね。私も学生に未来に向けていろいろ注文するんですけども、こんなことさせたい、あんなことさせたいと思っても、目標もなくモチベーションが低かったら効果は期待できません。

私は、高校の教師であったときもそうなんです。その子を勉強させようと思ったら、どういうことでモチベーション上げようかと思ったら、目標を持たせるんです。そんな遠い目標じゃなくて、自分が手を伸ばして取ろうと思ったら取れるような、ちょっと勉強したら取れるようなところまで目標を設定してやるんです。そして、それであんたはようやったねと、ちょっとしたことでもようやったね、すごくよくやったと言うんです。とにかく親は褒めないみたいです、生徒とか学生に聞いたら。親は自分の子どもを褒めるのは、何かちょっと控えてるみたいですけれども、これから、今日から、孫さんにも「お前、よくやった」と、それを言ってやったら、目標を持っていてよくやったと言ったら、自分の成功体験持ってますから、私はできるんだと思います。

もう一つは、悪いことをしたときに、お母さんに電話してくださいと、学校に。子供と一緒にやらないで、別々に。それで、母親に対して「きょう、私、思い切り油絞っておきましたから。今日はお母さんの出番ですよ。お母さん、きょうは寒いでしょう、こんなときは鍋を」と。鍋の効用はすごいんですよ。鍋をして、そして、子供帰ってきたら、ぐちぐちと学校で怒られたようなことは一切言わないように。これから頑張ろうね、一言言って鍋を食べさせなさい。そしたら変わるんです、高校生でも、いい子になって、一生懸命勉強をはじめます。

うちの学生の中でおもしろい話。「ラピートの乗務員になりたい、先生。私、他職に就職するのが嫌なんです。ラピートの運転手になりたいんです」と。女子学生ですが、卒論を指導している最中に、泣き出す始末、涙流しだして、はらはらと。それで「あんた、そんなに卒論書くのが嫌だったら、もうこの部屋から出ていきなさい」と言ったら、「違うんです、先生。部屋から出さないでちょうだい」と言って泣くんですよ。「私が悔しいんです。先生の言うてるのが悔しいのと違うんです。私に悔しいんです。私、今これが大嫌いで、大好きなんです」と言って感情の錯綜があった後に「私、嫌いじゃなかったら出ていかんでよろしい。涙拭きなさい」と言って学生が、南海電鉄に入りました。「よくやった」と言ったら、電話で「親は何も言わないが、先生は、よくやったと言うてくれました。」「これから勉強して、ラピートに乗っていい運転できるように勉強しなさい、さようなら」と言って電話を切った。又、ある学生は、生命倫理学と、解剖生理学ができるように特訓すると、全国500人で1人通るドナーコーディネーターに合格しました。「あな

た、できる、できる、できるで」と言った。「今まで出来ない、出来ないと言われてきた、急に「できる、できる、ようやる、できる、できる」と言語的に励ますと、学生が私に抱きついて「先生、やりました」と言って、合格した学生がいます。いろいろ愉快的な学生が卒業して巣だって卒業しましたが、人間は褒めるのはお金も要らないが、日本人は、褒めるのが下手です。29年間の高校の教師生活の中で、なお、今、大学の教員生活の中でも同じです。だから、皆さん、奥様も、ご主人も「ようやるわ、あんたすごい」と言ってあげたらいいんじゃないでしょうか。下図は宮城県と他府県の相互援助活動に取り組む宮城県と他府県の関係を表しています。

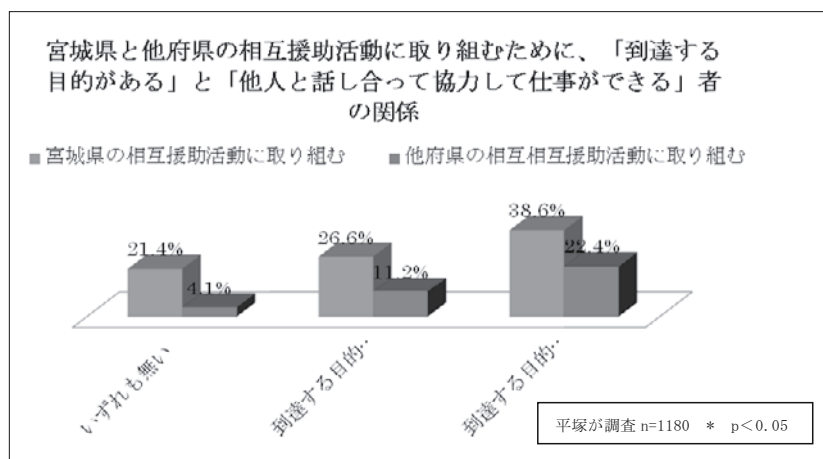


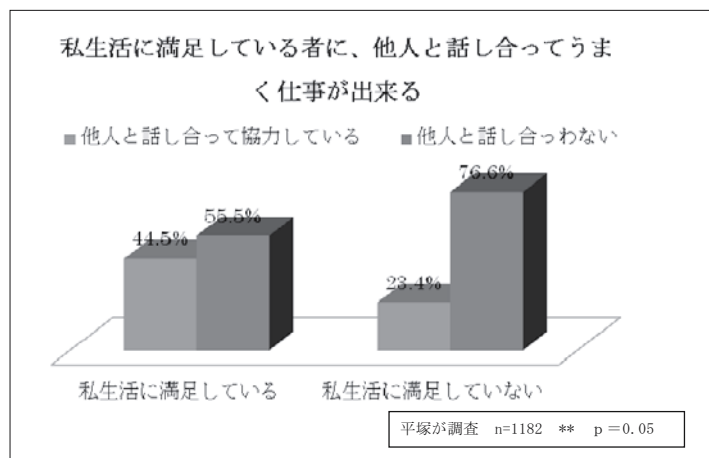
図1

東北の人は感謝する気持ちが極めて強いんです。人にも、ようやったと言わないんですけれども、強く感謝しています。表現の端々でよく出てきます。それでいて新しいことに挑戦することが好きです。

そういうことがありまして、次の表です。人を褒めることもできないと、他人とよく話し合えません。何かお仕事だけで話し合ったらどんなことになりますか。男の人、お仕事だけで、相手を尊厳性を持って見なかった場合、けんかになりますよね。そのとき、お仕事や、お仕事やと思って無理がかかってきます。他人と話し合って、協力して、うまく仕事ができる、こういう考え方が、宮城県の人は他府県よりも「いらいらして怒こる」ことなく人間関係を維持している。これは、人と話し合ったら、当然そこでいらいらすることが出てきます。それを合わそうと思ったら大変です。だけど、宮城県の人は、やはりお互いに心と心で何か信じ合っているところがありますので、そこでは「怒りっぽく」ないんです。

実は、個人が周りの人とどのような関係を結び、その関係を通して何を得ているのかということが、これがテーマになります。それで、これを上手にやれる人は、人生の節目というんですか、

そういうときに起こってくる課題に対処できる力、これが他人とうまく話ができるようになることです。



それから、もう一つは、時々生じてくるストレス兆候が現れることがある。上手に対応することができる。これから皆さん、まず近くの人とこういうふう話し合っ、他人と話し合っ、うまく仕事ができるように訓練しておきましょう。そうすると、南海地震が起きても、東北の人のように私生活に満足していれば、お互い助け合っとうまく仕事が出来ると思います。

私は大切な人間であると認識しているということは、これはどういうことなのかということなんです。これは、セルフエスティームということなんです。自己効力感と訳すんですけども、A行動を起こす人というのは、もう絶えず怒って歩く人です。これA行動をとる人は、セルフエスティーム、私は大切な人間であることを認識していない人が多いのではと考えられます。皆さん、自分に一度、問い直してください。

それから、もう一つ、セルフサポートを受けている人です。これは、私は大切な人間であると認識しているわけです。だれからも相手にされないということは、少ないとじ考えておいてください。

ここで見ると、他府県の方は「いらいらしっぱなし」というところで高いです。逆に反対、逆相関、東北の方、宮城県の方は「いらいらしない」という状態になっております。私生活に満足している。他府県よりも「いらいらして怒りっぽくない」というところが出ております。これも私生活に満足しているということです。

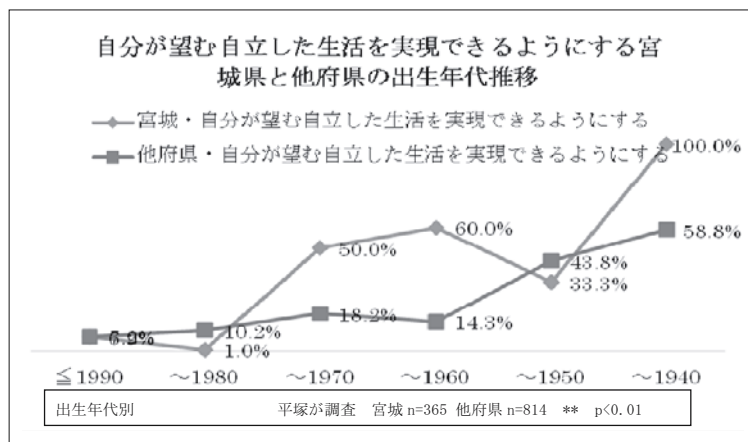
こういう人たちというのは、非常に生活の満足度が高い状態の人だとエリクソンは言っております。老後は活動的でなければ、満足な人生は得られないと言われておりますので、私生活に満足しているということは非常に大事なことでございます。これは、他府県よりも宮城県のほうが高いということになります。

次に、私は大切な人間と認識している。これは、宮城県だけの相関のグラフにしておりますけれども、人生を積極的に主体的に取り組んでいる人が多いということになります。これ自尊感情というんですけれども、先ほども言ったんですけれども、これ自尊感情や自己効力感というんですけれども、この A タイプを示す人、人につんつん、けんけんやる人は、これが低いと言われております。だから、みんなからはじき飛ばされますので、皆さん、ご注意ください。

それで、これもこれからレッスンすると変えられますから、皆さん、これからレッスンしてください。

次に、他人と話し合って、協力してうまく仕事ができる。宮城県民は、住みやすい環境の改善活動をする。宮城県は非常に保守的だと思っていたんですけれども、私が子育て支援をするに当たって、宮城県の県や市、栗原市より歓迎された経緯があります、一番最初に子育て支援講座を実施したことがあります。ここで、“他人と話し合って、協力して仕事ができる”ということ、そういう心を持っていたと思われます。だから、住みやすい環境の改善活動をどうかしてしたいという、考え方も持っておられます。

他人と話し合って、協力して、うまく仕事ができる。これも大事です。前にも述べたとおり、宮城県民は自分が望む自立した生活をのぞみ、自己実現できるようにする、したいという希望を持っている。非常に強い生き方を示している。下図は宮城県と他府県の“自立した生き方を望み、生活の自己実現を望む出生年代推移では、1980年と1950年を除いて、宮城県は他府県より高い値を示している。



今度は、他人と話し合って、協力して、うまく仕事ができるというところが、宮城県民が相互援助活動することに対して強い。この震災で理解できました。全員が自分の家で栽培している物を持ち寄って、「先生、野菜がたくさんうちとこあるんです」、「何ですか」と問うと「うちとこね、山のほうに野菜植えてるんです」。全員が持ち寄って、みんなで食べてるんです。と言って

住民がお互い持ってきてくれる、自分だけ食べるということはない。それで、飲料水（井戸水）やお米、女川の小魚までも食べさせて頂きました。「先生、せっかく来てくれて、大変ですね。私たちは災害受けて交通費も何も払ってないのに、先生よく来ていただきました」と言って、毎年、毎年、お米を送ってくれるんです、悪いなと思っています。そのお米はとてもおいしいお米です。放射能の検査を全部済ませているということで、私はお米には困ったことはありませんので、東京や神戸にいる息子の家族に60キロずつ送りました。おいしい米でありますので、皆様にも食していただきたいと思いますので、産業復興するためお願いいたします。

土地柄というか、上手につくっています。お互いに苦しんだ地域はみんな助け合っている、いつもありがとうと言う、その言葉が非常にうれしい。だから、こういう人たちを、他府県とばらばらに、どこかに分散して生きていくことを要求出来ないことです。東北の人たちは、昔の家、土地、村の意識が非常に強い。このような意識が心の中にあるんだということ。理由は、日本人の古代の神道の考え方が今も心の中に宿っていて、自然の中で、神の畏怖と畏敬の念が存在していて、自然や、人々に感謝をして、今も出来る範囲内で、精一杯の事を他の人のためにも助けあい努力をして生きていける力を持っています。大体これだけなんですけれども、私の体験も、宮城県栗原市の「やまぼうしの家」の住民達の希望があって、そこで最も強い6強の地震を受けて、それで多機能の救護施設をつくりたいという希望が住民よりありました。災害が起きたときに、どうしてもしなければならないこと、これは衣、食、住です。それから医療、教育、産業。衣、食、住、医療、教育、産業、同時進行することが重要で、そのときに、私は医療だけではなくて、ネットワークを組んで、相互援助活動が出来る施設を作ろうということを提案しました。それが、住民の力による多機能救護施設の開設に向けて努力をした結果、珍しい木造の檜作りの施設が開設されたわけです。

この開設に向けて努力してきた人々の中に自分たちの田んぼを提供した人、それから自分たちのヒノキ山を提供した人、お金を提供された方、もういろんな人たちがそれぞれ持ち寄って、この多機能救護施設をつくったわけです。できたのが2011年3月16日だったんです。これは、くしくも、ほんの1カ月おくれで私が多機能救護施設の開設に参加しました。けれども、本当は1カ月前にできて、そのときに、もっと大きな津波と震災が起きたということになります。

私は、狭山にも提案したいと思います。私は帝塚山学院大学ですから、皆さんに呼んでいただければいつでも提案しますからね。私も、皆さんも知恵を出し合って、災害に対処することをおすすめします。

それで、この多機能救護施設というのはどういう形になっているのかということなんですが、プライマリーケアをお聞きになったかと思いますが、これは5つの特徴があります。これは直接性で、近接性という、近いという特徴となっています。それで、時間的に、地理的に近い条件のところに造ることが必要となります。遠いところでは災害時には時間がかかります。

もう一つは、包括性と言います。健康問題の大部分は、心と体が病んでおります。それを健康

問題の大部分を、私は体だけです、とか、心だけですとか、それでは機能的ではありませんから、これらを包括的に実施できる状態でないといけない。健康問題全般としてとらえるような施設であることが必要です。

それから、もう一つは協調性。これは、医師と医師以外の専門性とのケアが必要になってまいります。こういった連携のもとでケアができるということです。

そして4つ目には、ずっとこれが継続できることが必要です。それで、この継続性というのは、適時、必要なときには連絡が取れるようにできることが必要とされます。継続性ということです。

5番目には、責任制と質が必要です。この質を適切な水準に、これがいつも最初できた状態ではなくて、絶えず水準を上げていかないといけません。そうすると、これは多機能救護施設、あるときにはお年寄りもそこでは泊めております。それから、多機能ですからいろんな機能を備えておりますので、多機能の救護施設。これは自分たちで提供した施設なんですけれども、この運営費は県が支払っているらしいです。人件費は独立採算制で実施されている。こういうことで、皆さんたちもこの問題に関して、将来、このような施設が必要ではないか。そして、心構えをみんなと一緒に、自分だけが幸せになろうなんて考えられません。私も時には自分だけ幸せになろうと思っていますけれども、これからは、みんな幸せに、一緒にやっ払いこうと。人間というのは、人と人とが支え合って生きているのですから、そういった考え方を持つことが私は大震災に勝てる人たちになれるんじゃないかと思います。関西地区も、津波がやってくる可能性があります。どうも聞くところによると、津波災害は、天王寺の上町線が走っている上町大地のところにまで水害津波が到達するということです。できたら泉北地区はちょっと高いですから、泉北の山という陶器山、ここが一番高いですね。全員で逃げる訓練しといたほうがよろしいと思います。それで多機能の施設もつくっておいたほうがよいと考えられます。余り低いところにくるよりも高い地域がよろしいかと思います。

今日は、私は勝手なことをお話ししましたが、大体お話しいたしました。それで、皆さんにきょうは資料を配っております。急いでつくりましたので、ごめんなさい。皆さん、もう一度資料をごらんになっていただきたいんですけれども、このタイトル、昔からということを農耕民族であって助け合って生きてきたんだということを、私はこの資料に書いてあります。助け合わない日本では生きていけないんだということを今、皆さんたちはご理解いただけたんじゃないかと思います。

それで、資源も限られたところです。そして、多くの人々と分かち合っていきましょう。

それから、私たちの地にいつやってくるかわかりませんから、昔は神様がこんなにしたんだというふうな考え方なんですけれども、まずは、私たちはまだわからない、この地震に関しては、わからないことだらけですから、それをやはり放送が出たらさっと逃げる、これ大事です。神様に私がお願いするのはいつもそう、足腰が丈夫で走れますようにと私はよく言っております。皆さんも足腰丈夫にして、走って逃げられるようにしておいてください。それと、みんな一緒に「逃

げろ、逃げろ」とかけ声をかけてください。

それから、皆さんには地震の原因というのがあります。この地震の原因というのが3ページのところにありますが、もう一度おさらいをいたしておきたいと思います。

地震は、地盤に亀裂ができて、その急激な運動によって大地を揺るがす現象である。これは、最初に言いましたね。地下の岩盤が動いたんです。プレート、岩盤のことをプレートと言います。深いところの岩盤は、温められて上昇します。変形して、それに反発する力が発生して地震が起きます。我々の大地を支える岩盤、プレート、これは、プレート同士の運動によってその境目付近のプレート内部は岩盤の変形が進行し、それに応じた反発力、応力の増大が直接の原因であるということをごに書いておきました。地震を起こす原因は、地球内部の熱にあるということである。

それから、なぜ日本では地震が多く発生するのかということ。ここで、太平洋プレート、それからフィリピンプレート、北アメリカプレート、ユーラシアプレートと、日本周辺には地震の原因となる4つのプレートが集中しています。それらプレート同士がぶつかるため、地震が多くなります。だから、世界の10%が日本の地において地震が起きておるわけです。

それで、ここで震度というのを皆さんたちに、これからいつ地震が来ても判断できるように書いておきました。地震とはということで、場所によって揺れる強さをあらわす数字で、震度ゼロは無感を意味します。それから、震度2になると多くの人が感じて、戸や棚がガタガタするので気づく、これが震度2です。きょう、賢くなりましたね、ガタガタしたらこれを見てくださいね。これを張っておいていただいたらいいと思います、これから。張っておきましょう。それから震度3、金魚鉢やふろの水面が動くのがはっきりとわかります、震度3。その水があふれんばかりになると震度4。あふれたら震度4、外を歩いている人でも地震だと、これだったら気づきます。それで、震度5になると被害が発生するようになります。震度5と震度6では2つに分けて、震度5強となると自動販売機が転倒することがあり、多くの人が恐怖感を抱きます。だから、震度5になって、出て、余震が出ますから、絶対こんな自動販売機の横に立ってたらあきませんよ。もう自動販売機から離れてくださいね、皆さん。何か飲み物ほしいと思っても自動販売機が転倒する事が想定されます。このときはもう。それから、震度6になりましたら、山崩れが起きます。地割れが起きます。それで、震度6強では人は立っていられなくなる。昔は、震度7では家屋の30%以上が倒壊する程度とされましたけれども、耐震性が高い最新の住宅には、これは当てはまりません。

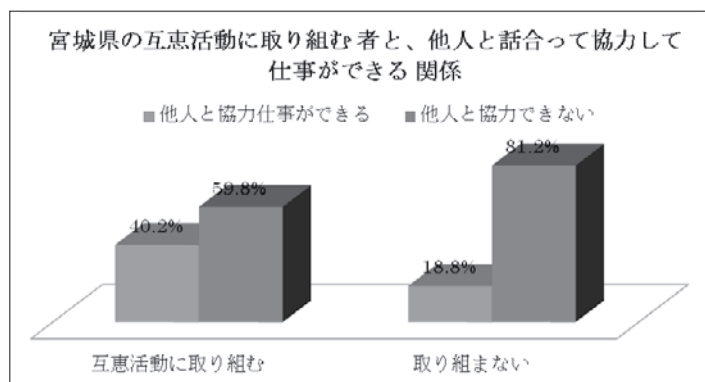
それで、下のほうにちょっと書いています。マグニチュード8以上の巨大地震の多くは、プレート境界の地震、これが先ほど言ったプレートの境で起こった問題ですと。だから、8以上あるということは、もうこの境界型、海溝型の地震であるというふうに、8と聞いたら、そうか、境界型かと思い出してください。何処にいたら良いか、部屋の机の下、食卓の下に潜り込んで、地震ゆらゆら、ゆっくりゆっくり動いているときは、これは境界型です。プレート地震です。だか

ら、ちょっと長いと思われても、じっとしててください。あちこちに出歩いたらいけません。自動販売機なんか絶対行かないでください。そこで自動販売機が倒れてきて、下敷きになって、死ぬようなことになったら、そのようなことはしないでください。きょうは、これまでといたします。(拍手)

東北の人々の互惠活動と、他府県の比較

— 宮城県の安定した支配のもとに進められた地域振興策の互惠活動 —

宮城県の互惠活動に取り組む者と、他人と話合って協力して仕事ができる 関係



宮城県互惠的活動に取り組む者と新しい事に挑戦する関係

